

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人片柳学園		平成25年3月1日		片柳 鴻		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																			
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																		
医療	医療専門課程	鍼灸科				平成17年文部科学大臣 告示第30号	-																		
学科の目的	医療人としての資質を育て、社会に貢献できる人材を育成する。伝統的な医療と現代の医療の両方に通じた医療人となり、広く地域社会に貢献できるように教育する。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
3年	昼間	2235時間	1815時間		855時間		単位時間																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
180人	81人	0人	7人	32人	39人																				
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S：90点以上 A：80～90点 B：70～79点 C：60～69点 D：59点以下は不合格 P：単位認定																				
長期休み	■学年始：4月1日～ ■夏季：7月21日～8月31日 ■冬季：12月23日～1月9日 ■学年末：3月18日～3月31日			卒業・進級条件	進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																				
学修支援等	■クラス担任制：有 ■個別相談・指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動：有																				
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 株式会社からだおん 株式会社トリート 多摩鍼灸整骨院 株式会社プレイジング 株式会社グローイングトゥギャザー ■就職指導内容 3年生においては合同企業説明会などを行い、企業との接触する機会を持っている。OBなどの話を聴く機会を与え、就業に対する意欲を高めるよう指導をしている。			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はり師</td> <td>②</td> <td>30人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>きゅう師</td> <td>②</td> <td>30人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 東洋療法学校協会 学術大会 研究発表 ポスター部門 優秀賞 受賞					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	はり師	②	30人	23人	きゅう師	②	30人	20人				
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																						
はり師	②	30人	23人																						
きゅう師	②	30人	20人																						
卒業者数		30	人																						
就職希望者数		20	人																						
就職者数		20	人																						
就職率		100.0	%																						
卒業者に占める就職者の割合		66.7	%																						
■その他																									
・進学者数：		0	人																						
(平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																									

中途退学の現状	<p>■中途退学者 8名 ■中退率 9.6% (休学者1名含まず)</p> <p>平成28年4月1日時点において、在学者83名(平成28年4月1日入学者を含む)</p> <p>平成29年3月31日時点において、在学者74名(平成29年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>基礎学力不足、精神的問題。</p>
	<p>■中退防止・中退者支援のための取組</p> <p>担任と科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。</p> <p>担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングループ等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。</p> <p>また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： (有)・無</p> <p>・片柳学園入学学金免除制度・片柳学園創立70周年記念奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度</p> <p>・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生・IT資格特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象・非給付対象</p> <p>※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： (有)・無</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審</p> <p>http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1) 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ② 「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
- ③ 「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2) 「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

- ① 「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ② 「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
- (3) 上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

厚生労働省による鍼灸師養成施設基準に準拠しより良い医療人を輩出できるような授業の実施をめざし、企業等と連携体制を確保して、現在の鍼灸業界の動向を鑑み、時代の流れに則した対応ができるよう、現場の状況を意見として取り入れていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、学校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
阿部 雅信	公益社団法人 東京都鍼灸師会	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	①
関 昌勝	関鍼灸治療院	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	③
長澤 洋二	ながさわ治療院 院長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 学校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
中山 敬二	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
宇南山 伸	日本工学院八王子専門学校 科長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	
淵川 達也	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 係長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日（1年）	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回（毎年3月・9月）

（開催日時）

第1回 平成29年5月26日 10：00～12：00

第2回 平成29年9月21日 10：30～12：00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・1回目 4月より委員に加わっていただいた阿部先生より、鍼灸接骨院の現状を詳しくお話しいただいた。その中で患者とのコミュニケーションの大切さを再度お話しいただき、次年度のカリキュラム編成のヒントとなった。

・2回目 鍼灸・柔道整復過程において、30年度よりカリキュラム改訂が義務付けられている件に関して、1回目でいただいた意見を反映してカリキュラムの編成を行った。心理学・介護基礎といった科目に、より「コミュニケーション技法」に関する内容を明確にするよう工夫をした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係											
<p>(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 鍼灸師養成施設基準に準拠する。 臨床現場で活躍する鍼灸師（教員資格有り）に講義を行ってもらい、より現場に近い授業を提供している。</p>											
<p>(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 普段の臨床現場で行う技術・判断などを中心に実習を組み立てていただいている。</p>											
<p>(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はり実技3・4</td> <td>臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。</td> <td>こぼり治療院</td> </tr> <tr> <td>はり実技5・6</td> <td>臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。</td> <td>あいのわ鍼灸治療院</td> </tr> </tbody> </table>			科目名	科目概要	連携企業等	はり実技3・4	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	こぼり治療院	はり実技5・6	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	あいのわ鍼灸治療院
科目名	科目概要	連携企業等									
はり実技3・4	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	こぼり治療院									
はり実技5・6	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	あいのわ鍼灸治療院									
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係											
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。</p>											
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等 平成29年3月2日 東京大学名誉教授 (公財) 喫煙科学研究財団理事長 石川 隆俊 先生 日本の癌研究のパイオニアとして活躍してきた石川先生が、いかに癌発生のメカニズムに迫っていたかという、若いころのお話から、現在明らかになってきている、生活と癌発生の因果関係など、多彩なお話をいただいた。 平成29年6月10日、11日 全日本鍼灸学会 学術大会 「世界日誇る 日本の鍼灸」 2日間に渡り、専任教員全員で参加した。多くの発表、セッションなどを通じて現在の日本の鍼灸の情勢を肌で感じる事ができた。</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等 平成29年8月3日、4日 東洋療法学校協会主催の教員研修会（鹿児島） 「斯界黎明の再考」のテーマでの研修会 代表者参加 後日科内で研修内容の共有</p>											
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等 全日本鍼灸学会 関東支部 学術集会 平成29年11月12日 参加予定 全日本鍼灸学会 学術大会 平成30年6月16日17日</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等 東洋療法学校協会 教員研修会 横須賀 平成30年8月2日3日</p>											
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係											
<p>(1) 学校関係者評価の基本方針 専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。</p>											

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3) 教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4) 学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8) 財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守 (33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献 (37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

社会環境が多様化している中で専門力＝教育力とは限らないので、教員の研修に注力してもらいたいのご意見から、研修体制を整え内容の精査を行う。SNSのマナーに関して、社会的にも問題になっていることから指導強化していく。また、教員の労働環境改善、メンタルケアなどサポート等の充実が必要とのことから、「ヘルスサポートセンター」等の学生および教員のサポート体制の充実を検討している。なお、今年度から教員の変形労働時間制度を導入し労働環境の改善をはかっている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	卒業生／IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	地域関連
北尾 雄一郎	ジェムドロップ株式会社 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 企画推進室 室長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
一瀬 康剛	株式会社アトム精密 代表取締役	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野ハートクリニック 事務長	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	医療 企業等委員
榊原 直哉	八王子市私立保育園協会 (藤井保育園副園長)	平成29年4月1日～ 平成30年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 平成29年9月2日
URL : <http://www.neec.ac.jp/announcement/23390/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、平成28年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/23390/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 鍼灸科) 平成29年度			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			栄養学	予防や治療の一環として重要な「食」の基本を学びます。	1前	30	2	○			○			○		
○			介護基礎	介護の予防に関する基礎知識を学びます	1前	30	2	○			○				○	
○			臨床心理学	患者の心理的背景を理解するための心理学の基礎を学びます。	1前	30	2	○			○				○	
○			コンピュータ1	情報処理リテラシー教育としてのワープロ、表計算について学びます。	1前	30	1			○	○				○	
○			コンピュータ2	情報処理リテラシー教育としてのワープロ、表計算について学びます。	1後	30	1			○	○				○	
○			解剖学1	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造（神経系、内臓系、筋系、骨格系など）について学びます。	1前	30	2	○			○				○	
○			解剖学2	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造（神経系、内臓系、筋系、骨格系など）について学びます。	1後	30	2	○			○				○	
○			生理学1	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の機能（循環、呼吸、消化、排泄など）について学びます。	1前	30	2	○			○				○	
○			生理学2	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の機能（循環、呼吸、消化、排泄など）について学びます。	1後	30	2	○			○				○	
○			からだのしくみ1	人のからだの構造や形態、その仕組みや機能などを基本から学びます。	1前	60	4	○			○				○	
○			からだのしくみ2	人のからだの構造や形態、その仕組みや機能などを基本から学びます。	1後	60	4	○			○				○	
○			臨床医学各論1	臨床活動をおこなう上で必要な西洋医学的知識について学びます。	1前	30	2	○			○				○	
○			医療概論	医療従事者としての倫理観、医療の歴史から現代の医療制度までを学びます。	1前	30	2	○			○				○	
○			公衆衛生学1	臨床活動をおこなう上で必要な西洋医学的知識について学びます。	1後	30	2	○			○				○	
○			経絡経穴1	鍼灸施術の基礎となる経穴（ツボ）について、名称や、主治作用について学びます。	1前	30	2	○			○				○	
○			経絡経穴2	鍼灸施術の基礎となる経穴（ツボ）について、名称や、主治作用について学びます。	1後	30	2	○			○				○	
○			鍼灸理論1	鍼灸施術における用具の知識、施術上の注意など基礎的知識について学びます。	1前	30	2	○			○				○	

○		東洋医学概論 1	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	1 前	30	2	○			○		○		
○		東洋医学概論 2	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	1 後	30	2	○			○		○		
○		手技理論	手技施術の治効理論について学びます。	1 前	30	2	○			○				○
○		灸実技1	灸（きゅう）施術の基本技術について実習します。	1 前	30	1				○	○		○	
○		灸実技2	灸（きゅう）施術の基本技術について実習します。	1 後	30	1				○	○		○	
○		手技実技1	手技施術の基本技術について実習します。	1 前	30	1				○	○			○
○		手技実技2	手技施術の基本技術について実習します。	1 後	30	1				○	○			○
○		はり実技1	鍼（はり）施術の基本技術について実習します。	1 前	45	1				○	○		○	
○		はり実技2	鍼（はり）施術の基本技術について実習します。	1 後	45	1				○	○		○	
○		スポーツ1	定期的なスポーツ活動が健全な肉体と精神の維持に必要であることを、実技を通じて学びます。	2 前	30	1				○	○			○
○		スポーツ2	スポーツ障害の防止などについて実技を通して学びます。	2 後	30	1				○	○			○
○		解剖学3	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造について詳細に学びます。	2 前	30	2	○			○				○
○		解剖学4	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造について詳細に学びます。	2 後	30	2	○			○				○
○		生理学3	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の機能（神経、反射、感覚、免疫、代謝など）について学びます。	2 前	30	2	○			○				○
○		生理学4	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の機能（神経、反射、感覚、免疫、代謝など）について学びます。	2 後	30	2	○			○				○
○		臨床医学各論 2	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。	2 後	30	2	○			○				○
○		臨床医学各論 3	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。	2 前	30	2	○			○				○
○		臨床医学各論 4	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。	2 後	30	2	○			○				○
○		病理学概論1	疾病の成り立ちを理解するために、病因、病変、炎症、腫瘍など病理学の基礎について学びます。	2 前	30	2	○			○				○
○		病理学概論2	疾病の成り立ちを理解するために、病因、病変、炎症、腫瘍など病理学の基礎について学びます。	2 後	30	2	○			○				○

○		診察学 1	患者の症状から、疾患名や予後を推測する方法を学びます。	2 前	30	2	○			○			○	
○		診察学 2	患者の症状から、疾患名や予後を推測する方法を学びます。	2 後	30	2	○			○			○	
○		鍼灸理論 2	鍼灸施術における治効理論や関連学説について学びます。	2 前	30	2	○			○		○		
○		鍼灸理論 3	鍼灸施術における治効理論や関連学説について学びます。	2 後	30	2	○			○		○		
○		東洋医学概論 3	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	2 前	30	2	○			○			○	
○		東洋医学概論 4	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	2 後	30	2	○			○			○	
○		診察学応用 1	東洋医学的診断法と西洋医学的診断法を学び、適切な施術を施すための判断力を養います。	2 前	30	2	○			○			○	
○		診察学応用 2	東洋医学的診断法と西洋医学的診断法を学び、適切な施術を施すための判断力を養います。	2 後	30	2	○			○			○	
○		中医学概論 1	中医学の理論的背景について基礎から学びます。	2 前	30	2	○			○		○		
○		中医学概論 2	中医学の理論的背景について基礎から学びます。	2 後	30	2	○			○		○		
○		灸実技 3	臨床において灸施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 前	30	1			○	○		○		
○		灸実技 4	臨床において灸施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 後	30	1			○	○		○		
○		手技実技 3	臨床において手技施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 前	30	1			○	○		○		
○		手技実技 4	臨床において手技施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 後	30	1			○	○		○		
○		はり実技 3	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 前	45	1			○	○			○	○
○		はり実技 4	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	2 後	45	1			○	○			○	○
○		取穴実技 1	さまざまな疾患の施術を行うため、体表解剖学の観点から、正確な取穴技術を取得する方法を学びます。	2 前	30	1			○	○		○		
○		取穴実技 2	さまざまな疾患の施術を行うため、体表解剖学の観点から、正確な取穴技術を取得する方法を学びます。	2 後	30	1			○	○		○		
	○	海外研修	外国における政治・文化・経済など、社会の変動と諸問題を研究し、現代人として必要な能力を養います。	2 後	60	2		△	○		○			
○		病理学	基本的な薬と人体の関係を学びます。	3 前	30	2	○			○			○	

○		スポーツリハビリテーション	受傷から、スポーツ現場復帰までのサポートに関する知識を学びます。	3 後	30	2	○			○									
○		解剖学5	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体の構造を機能面も含め総合的に学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		生理学5	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、人体のしくみを総合的に学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		バイオメカニクス	基礎力学からはじまり、歩行、人体のしくみ（運動器系）について学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		臨床医学各論5	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		臨床医学各論6	臨床活動をおこなう上で必要な知識である、西洋医学的知識について学びます。	3 後	30	2	○			○									
○		リハビリテーション医学1	鍼灸師として必要なリハビリテーションの知識、方法について学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		リハビリテーション医学2	鍼灸師として必要なリハビリテーションの知識、方法について学びます。	3 後	30	2	○			○									
○		公衆衛生学2	予防医学を環境との関わりから学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		公衆衛生学3	感染や生活習慣病予防、消毒など、予防医学に関して知識を学びます。	3 後	30	2	○			○									
○		関係法規	鍼灸師に関する法律から、医療法、医師法など関係法規について学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		鍼灸理論4	鍼灸施術における治効理論や関連学説について学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		東洋医学概論5	東洋思想の陰陽五行論を基礎理論として、東洋医学的な身体のメカニズムや病気についての考え方、診断施術法について学びます。	3 前	30	2	○			○									
○		診察学応用3	ベットサイドでの検査をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 前	30	2	○			○									
○		診察学応用4	ベットサイドでの検査をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 後	30	2	○			○									
○		臨床医学特講1	日常よく遭遇する疾患の施術、診断などの臨床上不可欠な知識を学びます。	3 前	45	3	○			○									
○		臨床医学特講2	日常よく遭遇する疾患の施術、診断などの臨床上不可欠な知識を学びます。	3 後	45	3	○			○									
○		漢方薬概論	一般的によく使われる生薬、方剤について学びます。	3 通	30	2	○			○									
○		臨床関係総論1	検査法、施術学、臨床心理学などの知識を基に医療従事者に必要不可欠な総合力を身につけます。	3 前	30	2	○			○									
○		臨床関係総論2	検査法、施術学、臨床心理学などの知識を基に医療従事者に必要不可欠な総合力を身につけます。	3 後	30	2	○			○									
○		灸実技5	臨床において灸施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 前	30	1				○	○								

○		灸実技 6	臨床において灸施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 後	30	1			○	○		○		
○		はり実技 5	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 前	45	1			○	○			○	○
○		はり実技 6	臨床において鍼施術をどのように行うか、部位別、疾患別に実習します。	3 後	45	1			○	○			○	○
○		臨床演習・実習	指導教員のもとで、診察、施術までの一連の流れを実習します。	3 後	45	1			○	○		○		
合計				82科目	2685単位時間(147単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目2625時間(145単位)取得ること		1学年の学期区分	2 期
		1学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。